

新報レポート

盛和塾シカゴ・バンクーバー支部主催

扇山信二氏講演会「私の経営観」

フィロソフィ教育は惚れさせよ!から正直が一番!



講演中の扇山信二氏

6月11日、バンクーバー・ダウンタウンのコースト・プラザ・ホテルで、盛和塾シカゴ・バンクーバー支部主催による講演会が開かれた。盛和塾千葉の代表世話人を10年間務めた、ゼットエー株式会社代表取締役の扇山信二氏が、自身の経営観や従業員教育に焦点を当てて講演した。軽快な語りの中に、揺るぎない信念と情熱を感じさせる話に、会場に訪れた約35人の参加者が熱心に聞き入っていた。講演会後は、扇山氏を囲んでの交流会も行われた。

始めに、日本航空バンクーバー支店長の安部省志氏が開会の挨拶をした。今年3月の就任後、盛和塾の勉強会に参加するようにになり、一企業の従業員であったとしても、経営に携わる一員としての責任や覚悟を持つことは大切なのではないかと感じていると述べた。

おみくじに導かれて 27歳で独立

家庭が貧しかったため幼稚園に通えず、自分も行きたいと漏らすと、父が「幼稚園は頭の悪い子が行くところ、お前はおりこうだから行かなくてよいと言いました。おりこう」と言われたことが効いたのか、学校では勉強も頑張る地元の名門進学校に合格しました。ところが、高校入学直前に父が事故で失明し、家庭もますます厳しくなりました。千葉県に住んでいた兄を頼って高校卒業後に就職しました。父は、それからしばらくして逝去しました。

27歳の時、初語に出かけた折に100円のおみくじを引くと、「あなたは27歳で独立します」と書いてあったんです。もともと独立したいと考えていた時にこのようなおみくじを見たので、4月に誕生日が来て28歳になってしまう前に独立しなくては、とすぐに勤め先に辞表を出しました。さて、何をするかと考えていた時に目に入ったのが「洋服直し」の看板。技術を持ったスタッフを雇って切り回しながらなんとかできるだろうと考えて、「リフォームランド」という店をオープンしました。その後、7年の間に138店

正直であることが一番

経営をするうえで、偉大な経営者の真似をすれば同じように成功するかというわけではないです。人間を1冊の本にたとえれば、最初の1ページから最後のページまで全く同じという人はいないわけです。盛和塾の稲盛塾長のフィロソフィに、経営の原点12カ条というものがあられ、それを掲げている企業さんも多いです。しかし正直に申し上げると、稲盛塾長には叱られてしまうかもしれないですが、私のところではすべては掲げていません、というか掲



右から、安部省志氏、司会を務めた中島千佳子さん、扇山信二氏、コーストホテル社長の小茂田勝政氏、アンジェラ・ホリンジャー氏

げられないのです。確かに全部でできることが理想ではあるけれど、自分ではできないことを掲げてしまっていることに堂々と嘘をついていることになり、迫力が出ないと思うからなんです。インターネットで検索してみると、「盛和塾に入った社長が、うちはうまくいっている」と満足しているけど、事務所に全然顔も出さないので実態を何もわかっていない。など、従業員の生の声が見られることがありません。実は掲げるものは立派ですが、「現場が大切」という塾長の教えをまったく実践していないのです。また、他にも社長の思いと従業員のそれとのギャップがなぜ大きく生まれるのか考えてみると、それは正直ではないからではない、と思います。成人君子ではないのだから格好つけすぎず、最初から正直に全部出してしまった方がいいと思うんですね。稲盛塾長は子供に事業承継をさせる時など「仁義を切れ」と仰います。それと似たところがあってもいいですね。私は自分自身が社員時代は理屈っぽくて扱いにくいタイプだったので、そういう社員の気持ちにはよく分るんです。自分が社員だったころの気持ちを忘れてしまっている人が多いのではないかと思います。また「構想は楽観的に、計画は悲観的に、実行は楽観的に」という塾長の言葉があります。悲観的なタイプの方は、計画を慎重に立てることができると任せられる。そういうふう

ていただく、または最初から入ってもらわないようにする。それは会社としてやっていかなくてはならないことです。無理して合わせるということも、長い目で見るとどこかでホコが出て、お互いにとって良くないのではないかとと思うのです。稲盛塾長の「動機善なりや、私心なかりしか」という言葉があります。動機が善であり私心がないかと自分に問えるということなのですが、入塾当初、私はこの言葉になかなか馴染めず、理解するのにすいぶん時間がかかりました。ある時、松下幸之助さんが80歳の時のビデオを見る機会があり、松下さんが「私はこの年になってもう私利私欲の塊だ。それを毎晩反省している」と話していたんです。それが自分の腹にすく落ちたんです。私心を持つことは当たり前。私心を抑えようとする気持ちが大切なのだと思ふようになりました。稲盛塾長の言葉は「そうありたい」という完成形の言葉だと解釈したら、非常に納得できました。

思いの力を伝える大切さということも強く感じています。最初からできずとも思っていている人と、最初から無理だと思っていている人では、結果はおのずと決まってくるのです。限界は人が作ってしまうものなんです。

社員に惚れもらおう

人にものを教えるときに忘れてはならないことは、わかりやすく伝えることです。そして、仕事を好きになるためには、楽しく仕事ができるこ

とです。義務感だらけで働くということにはつまらないし、人のためになるようにという使命感に燃えて、というだけでは足りないと思う。大切なのは「ワクワク感」だと思います。「あのお客さんはなかなか難しかったけれど、最後には褒めてくれた」などといったワクワク感。これが大事だと思うんです。目標を達成した時、脚光を浴びた時、他人に喜ばれた時などに人はうれしい気持ちになります。そうしたことをもっと活用して、社員に課題を与えたりすることで、社員も仕事が楽しくなてきます。

経営者としては社員に好かれているかどうかも大切です。私は、新入社員が入るとき、必ずその社員の両親の元に挨拶に行きます。全国どこでも行きます。千葉県の大宮町という所で古民家を買って、社員の研修所を作りまして、ご飯もかまどで炊いて、お風呂も薪で沸かすので、薪割りも社員たちにしてもらいます。新卒だけでなく、社員には定期的なことで研修を受けてもらっています。他の企業の方にも研修の様子を見に来て



扇山氏のユーモアも交えた熱い語りは参加者をひきつけた

扇山信二氏プロフィール 宮崎県出身。高校卒業後、9年間の会社員生活を経て、1987年に洋服直しの店「リフォームランド」を創業し、最盛期には全国138店舗を展開した。その後、「リサイクルショップ」「ゴルフランド」「つり具ランド」をオープン。他にもTシャツのプリントやパンフレット作成などのデザイン事業、海外留学支援事業、研修事業と多角的経営を展開している。

講演後には活発な質疑応答が行われた。最後に、C E Energy Development Corp.の社長、アンジェラ・ホリンジャー氏が閉会の挨拶をした。同氏は盛和塾の英語での勉強会のリーダーを務めている。

盛和塾 京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問の稲盛和夫氏がボランテアで塾長を務める経営塾。1983年の創設以来、国内56塾、海外40塾で二万人人余りの塾生が、人としての生き方と経営者とし

(取材 大島多紀子)